2016.1.29
第159号

発行
福島県市町村教育委員会連絡協議会
北会津支会
耶麻支会
両沼支会

編集
福島県教育庁会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

「相手」の意識

会津教育事務所域内三支会連絡会
会長 一ノ瀬 美枝

弁護士という職業柄、人の負の側面を見ることが日常です。問題を抱えた人が弁護士までたどり着くのはほんの一握りです。私がこの人たちに町で会ったら問題を抱えた人と感じることができるかといえば、明らかにワケありでもない限りは無理です。

法律相談では、相談者の目線に立つことはもちろんのこと、第三者的意見を求められます。勝つか、負けるかということになれば、何をもってして勝ちとするのか、例えば、貸した金を返してもらえない、借用書もあるとすれば、裁判では金を返しなさいという判決が出ますが、金がないところからの回収は無理、つまり判決としては「勝ち」、金を回収できない点では「負け」となります。また、情報は相談者からしか入ってきませんが全てを話してくれるわけではありません。人は本能的に不利な事実を隠しますし、実際にそれが不利か有利かは分かりません。

つまり、全ては「相手」があっての話なのです。教育現場でも同様です。問題が表に見えている子には何らかの対応ができる。しかし、問題が表に見えていない子はどうでしょうか。実質放っておくことになってしまうのではないでしょうか。大人にあたりまえのことを理解させ実行させることが難しいのは既に形成された自己があるからですが、それ故自己責任としか言いようもないのです。しかし、子どもは違います。子どもは家庭と学校あるいは地域といった非常に限定されたコミュニティで自己が形成される途中段階です。子どもの可塑性・脆弱性を、大人が、教育が、どこまでフォローできるのか。常に「相手」を意識することが重要となってきます。殊更教育現場ではその影響力の大きさ故、常に潜在的リスクをはらむことから、要求も大きくなってしまうのです。

教育委員として活動する中で、子どもたちが頑張る姿に救われる思いもします。ただ、確率的にはこの内の何人かは、将来裁判沙汰になるのかと思ってしまうのは、もはや職業病なのかもしれません。

各種受賞紹介

敬称略

□ 文部科学大臣表彰
○優秀教職員表彰
会津若松市立大戸小学校
教諭 安藤 裕明
会津若松市立第六中学校
教諭 中島誠太郎
猪苗代町立東中学校 教諭 渡部真喜子
喜多方東高等学校 教諭 木野美智子
○学校保健及び学校安全表彰
猪苗代養護学校 学校薬剤師 壽田 正夫
元喜多方市立第一小学校
学校歯科医 小汲 喜郎
○学校給食表彰
会津坂下町立坂下中学校
栄養教諭 二瓶美智子
○地方教育行政功労者
磐梯町教育委員会教育長 齋藤 就治
前昭和村教育委員会委員 羽染としの
○社会教育功労者
福島県市町村社会教育委員連絡協議会
副会長 山﨑 信子
□ 全国学校体育研究優良校表彰
会津若松市立第四中学校
□ 県教育委員会表彰
○地方教育行政功労者
前会津若松市教育委員会教育長
星 憲隆
前猪苗代町教育委員会委員長 岩橋 紀男
○学校教育功労者
会津若松市立城北小学校
校長 田中 靖則

○文化財保護功労者
前湯川村文化財保護審議委員会委員長
小野 留作
○へき地教育関係功績顕著な団体・施設
磐梯町立磐梯第二小学校
○優秀教職員
会津若松市立日新小学校
教諭 圖所 貞之
会津若松市立第五中学校
教諭 星 貴之
猪苗代町立緑小学校 教諭 菅井 明人
会津坂下町立坂下東小学校
主査 野邊久美子
○「児童生徒(団体)の部」特別功績団体
会津高等学校 合唱部
若松商業高等学校 簿記研究部
□県学校関係緑化コンクール
《学校林等活動の部》
○知事賞・福島民報社社長賞
会津若松市立湊小学校
《学校環境緑化の部》
○知事賞・福島民友新聞社社長賞
会津若松市立大戸小学校
○教育長賞
会津美里町立本郷小学校
○福島県学校緑化推進委員会会長賞
会津若松市立川南小学校
○(公財)福島県都市公園・緑化協会理事長賞
会津若松市立湊小学校

○(公財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団理事長賞
磐梯町立磐梯第一小学校
□県学校保健会表彰(学校保健功労賞)
会津養護学校 学校医 小松 紘
西会津町立西会津中学校
学校歯科医 渡部 晴彦
喜多方市立第三中学校
学校歯科医 物江 暁
喜多方市立駒形小学校
学校歯科医 松崎 賢造
喜多方市立上三宮小学校
学校薬剤師 三浦 裕子
喜多方市立堂島小学校
学校薬剤師 津村真由美
□県学校歯科保健優良校表彰
○栄誉賞
喜多方市立第一小学校
○優秀賞
磐梯町立磐梯第二小学校
喜多方市立上三宮小学校
喜多方市立駒形小学校
湯川村立笈川小学校
湯川村立勝常小学校
□県学校給食会優良団体・功績者表彰
○優良団体
猪苗代町立猪苗代小学校
□ふくしまっ子ごはんコンテスト(学校賞)
猪苗代町立千里小学校
会津美里町立新鶴小学校
会津若松市立謹教小学校
会津若松市立河東学園小学校
会津坂下町立坂下中学校

「総務社会教育課だより」 ～２学期の社会教育事業～

１　地域防災力向上支援プログラム

（１）日時：第１回「基礎編」平成２７年８月２４日（月）
　　第２回「実践編」平成２７年９月２５日（金）
（２）会場：会津大学　中講義室
（３）内容：講義・事例発表・グループワーク等

第１回「基礎編」　講義・事例発表・協議（参加者５８名）
「平時から取り組む〈災害福祉コミュニティ〉の構築」
～日常のつながりを生み出す『場』づくりの技法～
◇講師：県立岩手大学　社会福祉学部　講師　菅野道生 氏
　　日野市社会福祉協議会　宮崎雅也 氏

第２回「実践編」　講義・グループワーク（参加者４５名）
「防災シュミレーション教材〈さすけなぶる〉による演習」
◇講師：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター　客員准教授　天野和彦 氏
　　福島大学ふくしま未来学推進室事務局　地域コーディネーター　北村育美 氏

２　学校支援実践研修会（参加者８９名）

（１）日時：平成２７年９月７日（月）
（２）会場：会津坂下町立坂下東小学校
（３）内容：講話、実践発表、支援活動見学

◇講話：「学校と放課後子ども教室の連携」
　講師：会津坂下町立坂下東小学校長　鈴木茂雄 氏
◇実践発表：「学校・放課後児童クラブとの連携活動について」
　講師：会津坂下町 坂下東っ子クラブ　コーディネーター　樋口裕子 氏

●域内における体力向上・肥満防止の取組について

「自分手帳」の活用について

県教育委員会では、「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」として、本年度六つの施策を展開しています。今回は、本プロジェクトの核となる「自分手帳」の活用についてお伝えします。

「自分手帳」は、児童生徒が自ら継続的に記入し、家庭の理解と協力を得ながら運動習慣や食習慣、生活習慣を改善することで、健康に生活できるようにすることを目標に作られました。

県内の小学４年生から高校１年生全員に配付された「自分手帳」は、「運動」「健康」「食生活」の三部で構成されています。

「運動」は、体力・運動能力調査の結果や体育の授業で行った種目・記録等を記入し、自分の体力の推移を知り、自分に合った運動の種類や強さ等を決め、適切な運動を実践するのに活用します。

「健康」は、発育測定や健康診断の結果、病気、けが、予防接種、自分の生活リズム等を記入し、自分の健康状態を知るとともに、健康の保持増進を図るための生活行動を見直すのに活用します。

「食生活」は、掲載されている食生活に役立つたくさんの情報をもとに、食事の仕方や朝食の内容等を記録することで、食生活の傾向を知り、望ましい食習慣に向けた改善に活用します。

将来、健康な生活を送ることができるよう、活用の手引きや健康教育課ＨＰを参考に、各学校において積極的な活用が求められます。

子ども達の夢は「ふるさと定住」

三島町教育委員会教育長　坂内　洋二

三島町振興計画後期基本計画（地方創生総合戦略を含む）策定に伴うアンケートで、三島中学生３０名中、４名が将来三島町に「住み続けたい」、１６名が「一度は出てもまた町で暮らしたい」、また、５名は「町外転出予定だが、条件が整えば戻ってもよい」と答えています。豊かな自然環境や伝統行事等にふるさとへの愛着と誇りを持ち、「将来もふるさと＝三島町に住み続けたい」という多くの子どもの意向は、過疎・高齢化の進展する三島町には頼もしい一筋の光明です。これも、町教育振興基本計画の基本理念「ふるさとと自分に誇りが持てる人づくり」に連動した小学校教育目標「ふるさとに誇りをもち、未来の夢を育む心豊かな児童の育成」、中学校教育目標「故郷を愛し、明日の社会を担う人間として調和のとれた生徒の育成をめざす」のもと、家庭と学校と地域が連携・協力して「地域の子ども」の育成に力を注いできた（その一端は、昨年６月発行「あいづね第１５７号」に紹介）成果とみるのは、手前味噌過ぎるでしょうか。

しかし、町の現状は厳しい。子ども達の夢の基盤となる働く場所の確保や生活の利便性向上、結婚・子育て環境の整備等、早急に解決せねばならない課題が山積しています。Ｉターン、Ｕターン、孫ターン等若者を地方に呼び込む試みは賑やかですが、多くの若者が地元に残ることが基本であり、急激な人口減少に悩む奥会津の各町村では、学力向上は元より地域に根ざした教育を推進して、地域を支える人材を育成することが肝要であります。町に描く「若者定住対策」を実効あるものにして、子ども達の夢実現につながるような教育行政に努めたいと思います。

我がまちからの情報発信

柳津町教育委員会

地元に根ざした美術館をめざして

名刹福満虚空蔵菩薩圓藏寺を望む只見川のほとりに平成９年開館の町立斎藤清美術館があります。斎藤清画伯から寄贈いただいた作品をはじめとして約８９０点の作品を所蔵し、年間１万人以上の来館者を迎える美術館は、平成２９年度に開館２０周年を迎えますが、同時にまさに開館を待つようにお亡くなりになった斎藤画伯の没後２０周年と重なります。現在、２年後の特別展の計画を進めており、斎藤清の作風に大きな影響を与えたといわれる北欧ノルウェーの画家ムンクとのコラボ展を企画しております。二人の画家の「共演」を多くの皆様が堪能していただけるよう準備を進めているところです。

このように県内外に向かって情報を発信するとともに地元の皆様の芸術への関心を高め、文化的な活動を後押しするような活動も展開していきます。来年１月には両沼の中学生の作品を展示し、町内外の保護者の皆様に鑑賞いただけるよう計画を進めています。展示する作品は両沼地区中学校生徒造形作品研究会・習作審査会で特選に選ばれた絵や彫刻、デザインや工芸で合計60点の力作揃いで、美術館中央の多目的ホールで展示する予定です。美術館にとっては新たな境地の展覧会の開催であり、両沼の皆様の文化活動の一助となり、次の斎藤清となるような新しい才能を発見することのできる機会となることを願っています。

作品と指導

工作

『なかよし3・4年ペン立て』

金山町立横田小学校
4年 滝沢宏樹

空き容器を使って日常で使える小物入れを作りました。
形の違う容器を固定するために粘着テープと麻紐を使いました。自分と同級生二人をイメージして表情を工夫し、三方向から楽しめるように組み合せ方を考えることができました。

指導者 佐々木悦子

絵画

『ザリガニ』

会津若松市立城南小学校
2年 平田真夢

布を巻きつけたわりばしに墨液をたっぷりつけて描きました。ザリガニも背景も、質感を出すために、水の代わりにでんぷん糊を使いました。
生活科で身近になったザリガニを親しみを込めてコミカルに描くことができました。

指導者 猪俣宣夫

習字

『恵風』

喜多方市立高郷中学校
三年 山口薫

卒業を前に、記念に残る作品をと「蘭亭序」から選んだ一語は、行書の基本を忠実に押さえ、筆脈と字形が調和した美しい作品となりました。「恵風」の如く、恵み多い前途が開けることを期待しています。

指導者 佐瀬裕子

私の抱負

「つなぐ」ということ

喜多方市立
山都中学校
教頭
木幡 健

四月に新任教頭として山都中学校に赴任してから、多くのことを多くの方々から学び続けています。
つなぐ教育推進事業。人が変わっても大切にして推し進めるべきもの。小学校・地域・保護者との連携強化のために中学校が果たすべき役割。そして継続するための方途について学んでいます。
創立三十周年記念行事。生徒が歌った今は歌われなくなった統合前の校歌が、山都で育った山都内外の人々に大きな反響を及ぼしました。地域と学校、同窓生と在校生、学校の歴史と今、そして未来。有形無形の学校と人々との心のつながりを実感しています。
今後も、「つなぐ」をキーワードに教頭としての歩みを少しずつ前に進めていきます。

「縁」

福島県立
猪苗代養護学校
教諭
五十嵐美雪

昨年の夏、磐梯山と猪苗代湖を写真に撮り、当時勤務していた神戸市の特別支援学校で、生徒達に会津の自然の美しさを紹介しました。
そして今年四月、磐梯山の麓にある猪苗代養護学校に赴任し、ここで出会った生徒・先生方・猪苗代の町に「縁」を感じながら新しい生活をスタートさせました。環境が大きく変わり、戸惑うこともありますが、周りの先生方や保護者の方々に支えられ、少しずつ慣れてきているところです。初回の研修で「初心忘るべからず」「今できること・やれることを精一杯に」と再確認し、目指すものは何であったか、そのために今できることは何かを考えながら、生徒達とともに自分自身も成長していきたいと思います。

教育者という立場になって

会津若松市立
行仁小学校
教諭
守谷健太郎

四月の着任から、早八ヶ月が過ぎ、磐梯山も雪化粧を始めました。私は、この八ヶ月で初任者研修や実際の学級経営を通して大きく二つのことを学びました。一つ目は、自身が研修などを通して学び続けることの大切さです。子供たちや社会は、時代と共に変わります。そんな中で子供たちに生きる力をつけさせるためには教師自身が学び続け、共に成長していくことが必要だと感じました。二つ目は、感謝の気持ちを忘れないことです。保護者や地域の皆様・職場の同僚・初任者研修指導の方々・友人など、本当に多くの人に支えられてきました。感謝の気持ちを常に持ち続け、まだまだ未熟ですが、子どもたちの笑顔のために学び続けていきたいと思います。